

大麦特報 (第2号)

平成29年10月
なのはな農業協同組合
富山農林振興センター

播種作業は順調に行われ、苗立ちは概ね良好です。

今後は、年内の生育量をしっかり確保するため、**排水対策**を徹底するとともに、分施ほ場では年内追肥を確実に行いましょう。

1 排水対策の徹底

大麦は、水が溜まると根腐れ症状（湿害）が発生し、生育不良となります。ほ場内の排水状況をこまめに確認し、**排水溝の手直し**をしましょう。

○排水対策のチェック項目

- ①縦溝と横溝をしっかりと連結する。
- ②溝の埋まりや浅い所を手直しする。
- ③額縁排水溝を水尻に確実に連結する。
- ④水尻を掘り下げ、雨水が円滑に排水されるようにする。



2 播種後1ヶ月追肥（分施ほ場）

年内追肥は、茎数の増加を促すことで、穂数や収量を確保する重要な作業です。播種時期に応じ、遅れないように施用しましょう。

【施用時期及び量の目安】

施用時期	肥料名	10aあたり施用量
播種後1ヶ月頃 (11月上旬頃)	硫安	20kg

※肥効調節型配合肥料(LP大麦48号)を施用した場合は、原則追肥しない。